

(議長)

次に、西海谷議員の発言を許可致します。

「西海谷議員」

議長。

(議長)

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

宜しくお願いします。

それでは、私の方から、北前船寄港地フォーラム開催終了後の連携、そして地域間交流につきまして、ご質問させていただきます。

去る11月の10日、11日に当地で開催されました北前船寄港地フォーラムは、全国から集まった北前船の寄港地、自治体、そして観光関係者の方々が、本当に多く集まって頂きました。さらに、多くの町民も集まって頂きました。私も、このフォーラムやレセプションで、多くの寄港地の方々と交流をすることが出来ましたけれども、改めて北前船寄港地とそして江差の絆を強く感じた次第でございます。

北前船寄港地フォーラムは、寄港地間の連携や交流を通じ、観光振興や地域活性化を図ることが目的であります。江差町としても、この度のフォーラムを一過性のイベントとして終わることなく、今後も、北前寄港地間の連携、交流を継続し、地域振興に繋げていくことが必要であると思っておりますし、この事業の目的であると考えております。そういう意味を込めまして、今後の対応をどのように考えていくのか、町長の考えをお聞かせください。

「町 長」

議長。

(議長)

「町 長」。

「町 長」

西海谷議員の北前船寄港地フォーラム開催終了後の連携、地域間交流についてのご質問にお答え致します。

11月11日に開催されました第18回北前船寄港地フォーラムin北海道江差ですが、全国各地の北前船寄港地自治体や、空路・陸路の交通関係事業者など、地元江差

町の町民を含め600名を超える参加者が集い、盛況に開催することが出来ました。

また、全国各地の寄港地物産展も同時に開催され、多くの物産が紹介され、賑わいを見せていました。

江差町議会議員の皆様や町民の皆様にも参加して頂いたこと、この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。

さて、西海谷議員から、今回のフォーラムを通じた各寄港地間の連携・交流を今後どう活用していくのか、という質問ですが、今回の参加については、17都道府県45市町村にも及ぶ地域から参加がありました。いずれも、北前船と関連がある自治体であり、寄港地同士の仲間です。

今後は、歴史文化交流や物産交流などを通じて、寄港地間の交流人口の拡大に向けた取り組みから、観光を通じた絆の形成に努めていきたいと考えております。来年の第19回のフォーラムは5月に兵庫県淡路島の洲本で開催されます。淡路島は30年前に復元された北前船辰悦丸の開港事業を行った地でもあります。今回を契機に、江差からも参加し交流、観光交流の絆を深めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「西海谷議員」

はい、議長。

(議長)

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

これから、今おっしゃられました観光交流の絆を深めながら積極的に参加していくというお話がありましたけれども、私はまず観光というのは、特に、人との交流ということだと思います。そういう中で私が今回フォーラムで本当に感じたことは、寄港地の人たちが本当に江差に対する思いが強い。それは何なのかな。やはりですね、北前船と江差に、やはりこの先祖が、来た寄港地の方々の先祖の方々も、やはり100年、150年前に、江差に北前船で来ているのだと、そういう思いを直に、私の方にお話しして頂きましたけれども、本当にこの江差との寄港地、各寄港地の繋がりは、ずっとこの人の交流、物だけでなくて人の交流が強いのだな、とこのように感じた訳でございます。

さらに昭和62年に当町の江差町が発信としました、北前船大回航事業というのがありました。30年も前ですから、わからない方も本当に多いのではないかなと思っておりますけれども、その時に関わった各寄港地で、それぞれ関わった人たちが、当時の思い、これを私のところに来て、わざわざ語って頂いたのですよ。本当に、私は感激しました。ああ、今でも、そういう思いで北前船を想っている、江差を想っている、こういう人

が本当に多いのだなと、そういう風に感じた訳でございます。

しかしながら残念なことに、江差に、北前と江差の歴史や文化を紹介・展示するようないところがないのですよ。確かに、江差の文化施設、中村家だとか、旧関川家別荘だとか、郡役所だとか、それぞれゆかりの場所はありますけれども、独自の北前船を紹介する場所、ところ、こういうところが本当に無いのですよ。

私はやはり、江差に対するそれらの想いを持っている方々のことを思うと、やはり江差にそういう北前船を紹介するしっかりと、そしてそれをいわゆる町外から来る人、観光客の皆さん、それから今後、将来の江差を担っていく子どもたち、これにしっかりと江差と北前船の関係を、歴史文化を、伝えていくということが必要では無いかなど思っております。

さらに昨年、建造基金、北前船寄港、建造計画実行委員会、その実行委員会から寄付を頂いております。そして北前船の回航当時の資料とか、それから各地の記念品もたくさんありますよ。やはり、そういう当時回航に関わった人たちの想いはまだまだありますし、その基金を頂いた思いもあります。そういう意味を込めまして、ぜひそれらを後世に残すような、北前船の紹介展示するようないところを設けてほしい。それは別に色々な活用っていうか、町内の施設だとか、それから空き店舗だとか、空いている土蔵とか、色々な場所が考えられるのではないかなと思っております。そういう中で、工夫を凝らしながら、それをしっかりと残していく。このことが大事かなと思っておりますけれども、是非検討してもらいたいと思っておりますけれども、町長の考えをお伺い致します。

(議長)

はい、「追分観光課長」。

「追分観光課長」

西海谷議員から、北前船の資料館といいますか、北前船の資料を展示するようないところを設けたらいいのではないかなというような2問目の質問でないかなと思っております。

新たな資料館を建設するっていうようなことは、現在は考えてはおりません。ただ、北前船の資料展示そのものについては、江差町の新たな観光振興に寄与するのではないかなということは十分あの認識をしております。今おっしゃったように、辰悦丸の回航から今年で30年が経った。その記念すべき年に、この北前船寄港地フォーラムが全国から300名を超える方々、そして道内含めて、町民含めて600名を超える方々が文化会館に集った訳です。そういう観光の交流も大切にする意味では、重要なことと認識しております。

そこで、新たな建設が出来ないとしたならば、今議員がおっしゃったように既存施設の有効活用が出来るかどうか。また、あの空き店舗以外にも空き家、これらの活用策が

出来るか。また財源については、どのような財源、先程寄付のお話もございました。当然財政サイドとも相談しなければダメですし、関係各課とも協議をしていかなければダメだと思っています。

いずれにしても、今回の北前船寄港地フォーラムを契機に、どのような観光振興策が出来るか、庁内の横断した中で協議を進めて参りたいなと思っています。宜しくお願いします。

(議長)

「財政課長」。

「財政課長」

寄付金の関連につきまして、私の方から答弁申し上げたいと思います。

昨年、建造計画実行委員会様から寄付金を頂きました。寄付金につきましては、特定目的基金という形で積み立ては致しませんでしたので、いわゆる一般財源という形になりましたので財政調整基金、そちらの方に含まれていると考えて頂いて結構かなと思います。

それで、寄付採納の際に、北前船に関する事業ですとか、まちづくり全体の方に活用させて頂きたいと行政報告がされております。実際に、財政調整基金を取り崩すかどうかは別と致しまして、また具体的には、ただ今大坂課長の方からありましたが、具体的事業は担当課なり、担当課サイドで、それから最終的には町として決定していくことになるかと思いますが、そういう風になりましたら、財政と致しましては予算化することになりましたら、財源手当てということで活用させて頂きたいと思っています。その辺、ご理解頂きたいと思います。

(議長)

はい、いいですか。

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

是非検討して頂きたいなと思っていますので、2問目の方に入ります。

じゃあ2問目の方いきます。

(議長)

はい、2問目。

「西海谷議員」

農水商三業連携推進事業の取り組みにつきまして、ご質問させていただきます。

農林水商三業連携推進事業は、三業の、主に若い人たちの中で実施されていると聞いております。今年度事業の実施状況と成果につきまして、どうであったのか。今年度といっても、もうしばらくありますけれども、どのような形で進められているのかお願い致します。

また、さらに来年度、この事業をどのように進めていくのか。目指す目標はどのように考えているのか。そして、来年度以降の事業内容だとか、タイムスケジュールをどのように考えているのか、お答え願いたいと思っております。宜しくお願い致します。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

西海谷議員の2問目、農水商三業連携推進事業の取り組みについて、のご質問でございます。

町では、昨年度、国の地方創生施策のもと、江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、江差町の目指すべき将来に向け、具体的な数値目標を設定しながら、向こう5年間の重点施策を定めたところでございます。

総合戦略は、地域を支える若者層の人口を維持することに重点を置き、若者の生活基盤を支える仕事づくりを重点的に推し進めることで、将来にわたり持続できるまちづくりを進めていくものとしております。

これらの取り組みを達成するため、各種施策として、地域資源の生産力強化、経営安定対策、江差ブランド製品づくり、農林水産業体験等メニューの構築が具体的な施策として位置付けられており、三業懇話会、これ三つの業と書きますけれども、三業懇話会はその具体的な取り組みの1つとして、実施しているものでございます。三業懇話会では、1次・2次・3次の各三業に従事されている若者の担い手である皆様に、三業間の壁を越えて親睦を深めて頂き、連携を強化することによって、お互いのノウハウを生かして、新たな商品やサービスの開発・提供・販路拡大など地域ビジネスの創出に繋げていくことを目的としております。

今年度においては、それぞれの問題意識を共有し、主体的に解決する当事者意識を生むことを目標に、これまでに3回実施され、年度内にもう1回開催を予定しているところでございます。次年度以降は、参加者の自主性を尊重しつつも、異業種間交流におけるアイデアから商品化に向けた検討、商品化に向けて検討し、試作品の開発、その後新商品の開発や新たな起業へつながる取り組みとしていきたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」

町長、私はこの若い人たちが集まって、色々と町づくりを考える、これ非常にやはり有意義で期待をしておる訳でございます。やはり町づくりというのは人づくりだと思っております。そういう意味をもちまして、ぜひ積極的な形での支援をして頂きたいと思っておりますが、この三業、三つの業って書いていますね。いわゆる、正しく農水商、それらの三業に関わらず、江差にいる今は地域おこし協力隊、DMO関係の、それからそういうような方々、それから若手の役場職員も含めた中で、もっと輪を広げた中で、色々な意見交流や、やっぱりその人との交流、若者同士の交流というのが必要かなと思っております。ですので、もっと幅の広い形で、江差の将来を考えて頂くような、そういうような懇話会であってほしいなと思っておりますけれども、まずその辺、どのように考えているかということと。

それから、やはり話をしている中で、ある一定の目標が出てくると思うのですよ。そうになると、やはり私は見聞を広げるためにも、どんどん他地域の方に視察に行くとか、そういうような研修にしに行くとか、そういうことも含めて、積極的にどんどんどんどんそういう事業を進めていって欲しい。それは行政関わらなくても、独自でも、一所懸命やってもらいたい、とこのように思っています。そういう中で、どこまでその行政が支援できるのかな。ぜひ支援してほしいと。で、そういう中で若い人たちを、どんどんどんどん見聞を広げるような、そういうまちづくりにつながるような、会になって欲しいなど。

非常に人材育成には、時間がかかりますしお金もかかると思いますよ。しかし、これを今しっかりとやるのが、将来の江差に繋がると、このように思っておりますので、そのような、積極的な支援、それぞれ町長の考え方を含めてですね、お聞きしたいと思っております。

(議長)

はい、「産業振興課長」。

「産業振興課長」

私の方から、お答えをさせて頂きたいと思えます。

町長の方から、答弁させて頂いたとおり、三業、1次産業・2次産業・3次産業、業種でいくと農林水商、こういうようなですね、メンバー。それと合わせて、江差町で今地域

おこし協力隊のメンバーが入りながら、現在、この担って頂きながら、議論を深めているというところでございます。

役場の方からお願いして、こう立ち上げた委員会のような形になってございますが、やらされているということではなく、やはり自ら問題意識を持って頂いて、気づいて頂いて、その他、異業種の問題も聞いて頂いて、知って頂いて、江差町が抱える問題をまず共有して頂くということが1つかなと。もう1つは、同じ江差に住んでいて、異業種であったり、同業種であっても、なかなか会う機会がないという中での取り組みでございまずので、同年代の方々が、一堂に集まりながら、それぞれの悩みですとか、優れた所ですとかを、知り合いながら、というところからまず始まるのかなという風に思っております。

こういうまず課題を考えて頂いた中で、この課題の解決に向けて、じゃあどのような手立てをとることが必要なのかというの、自ら検討して頂きたい。そして、それぞれの三業間のコラボによる新商品の開発ですとか、また新たなビジネスの創出ですとか、いうところに向かっていけたらいいというのが、私たちが描いている目標でございまず。

昭和62年に、大回航しました北前船の大回航ありましたけれども、これもある意味でいくと色々な業種の若者が集まって、この事業を成し遂げたものだなという風に思っています。ですから、私もこの皆さんと会ってご挨拶をさせてもらうときは、この事業の例も出しながら、皆さんにはこういうエネルギーがきっとあるだろうと、だからこういうエネルギーを大事にしながら、まちづくりに努めて頂ければなというようお願いをしながら、この事業を進めているという状況でございまず。

視察についても、否定するものではございませんけども、自らこんなところ見に行きたいというようなものが出てくれば、改めて内部で協議をさせて頂ければなという風に思っております。

メンバーにつきましても、固定したものではなく、現状では役場の職員入っておりますが、今後役場の若手のメンバーがこの中に入っていくということもありうるのかなという風に思っておりますので、これは流動的なところでございまずので、こうしろということではございませんが、自由に、自由に議論して頂きながら、新たな道筋を考えていってもらいたいなという風に、私たちも思っていますし、それに対する支援をしっかりしていきたいという風に思っております。以上です。

(議長)

はい、いいですか。

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

お聞き致しました。ただし、あまり縛りをつけないで自由な発想の中でやはり、若い

人たちの意見を聞く、交流を深める。こういうところをまず時間をかけた中で、育てるといったら失礼ですけども、そういう意味では、自由な発想の中で皆さんが、まずはコミュニケーションをとるということを主眼の中で、縛りつけないような形でのまた支援ということも必要かなと思っておりますので、宜しくお願い致します。

特に、今年度の予算をみると、非常に少ないなと思っておりますので、来年度以降もしっかりとした支援をして頂きたいと、という質問にすればいいのですね。

(議長)

はい。「産業振興課長」。

「西海谷議員」

すみません。

「産業振興課長」

はい。おっしゃられる通りだと思いますので、先程も、繰り返しになりますが、やらされている感でなくて、自ら考えて行動していく。この行動に対して、町として、どういう支援が出来るのかということをも十分検討して、前向きに取り組みを継続していきたいなという風に思っておりますので、ご理解を頂ければと思います。

「西海谷議員」

はい、ありがとうございました。

(議長)

これで西海谷議員の質問を終結致します。

以上で、今定例会に通告がありました一般質問は、全て終了致しました。